

パフォーマンス一覧

Index	銘柄数	時価総額 (10億円)	パフォーマンス実績 (%) (日本円、トータルリターン)							配当 利回り (%)
			1カ月	3カ月	6カ月	年初来	1年	3年	5年	
日本市場										
FTSE Japan Index	493	323,343.99	-0.13	7.52	-0.73	-13.41	-4.80	16.82	92.28	2.27
FTSE Japan Value Index	493	158,859.61	-1.38	10.46	-1.00	-15.49	-8.04	13.79	76.86	2.97
FTSE Japan Growth Index	493	164,484.38	1.13	4.77	-0.44	-11.30	-1.47	19.84	108.95	1.59
FTSE GWA Japan Index	493	-	-1.46	9.40	-1.01	-15.31	-7.21	13.24	85.11	2.65
FTSE RAFI Japan Index	269	-	-1.30	10.01	-0.36	-14.27	-6.58	14.56	87.60	2.58
FTSE EDHEC Japan Index	493	-	3.00	5.81	0.15	-9.23	-0.05	34.47	105.46	1.94
FTSE Japan Minimum Variance Index	302	-	3.60	5.41	1.05	-4.90	4.99	45.80	122.64	2.09
グローバル市場										
FTSE Developed Index	2,102	3,453,077.81	-1.51	3.77	-4.22	-10.61	-5.16	24.03	133.32	2.53
FTSE Kaigai Index	1,609	3,129,733.82	-1.65	3.40	-4.57	-10.31	-5.19	24.79	137.77	2.55
FTSE GWA Kaigai Index	1,609	-	-1.76	4.44	-4.89	-10.48	-5.99	19.96	129.72	2.86
FTSE RAFI Kaigai 1000 Index	1,022	-	-1.48	3.81	-4.45	-10.42	-6.43	17.50	126.72	3.29
FTSE DBI Kaigai Index	1,609	-	-1.99	1.56	-6.03	-8.89	-4.30	21.86	114.08	2.93
FTSE EDHEC Developed ex Japan (Kaigai) Index	1,609	-	-1.51	3.28	-4.85	-9.02	-4.60	32.07	153.35	2.21
FTSE Developed Minimum Variance Index	1,368	3,458,811.13	-1.21	2.09	-4.58	-6.86	-1.49	34.81	141.31	2.38
エマージング市場										
FTSE Emerging Index	982	347,757.90	-1.08	6.70	-0.79	-1.66	-0.94	5.43	56.29	2.97
FTSE GWA Emerging Index	982	-	-0.85	8.20	0.09	-0.11	0.73	3.47	52.68	3.82
FTSE RAFI Emerging Index	363	-	-0.61	9.86	4.53	8.80	7.86	0.06	43.47	3.95
FTSE EDHEC Emerging Index	982	-	-1.81	5.16	-2.69	-4.53	-2.91	7.44	68.40	3.04
FTSE DBI All Emerging Index	982	-	-2.21	3.39	-5.73	-4.23	-3.92	-0.87	50.84	3.07
オルタナティブ市場										
FTSE EPRA/NAREIT Developed Index	333	145,149.56	-2.98	0.15	-5.17	-6.58	-2.04	32.14	143.74	3.58
FTSE EPRA/NAREIT Developed REITS Index	261	117,637.39	-3.45	-1.15	-5.45	-5.76	-0.10	43.43	154.60	3.83
FTSE EPRA/NAREIT Emerging Index	147	14,742.38	-1.42	6.23	-1.21	-5.93	3.11	8.43	80.71	3.72
FTSE Global Core Infrastructure Index	230	181,347.08	-0.15	-0.51	-4.09	-2.84	-3.14	31.44	127.11	3.14
FTSE Developed Core Infrastructure Index	153	171,098.48	0.11	-0.67	-4.20	-2.89	-3.55	32.78	130.96	3.15
FTSE Emerging Core Infrastructure Index	77	10,248.60	-4.35	2.29	-2.14	-2.12	4.75	8.13	65.36	2.94

データ出典: FTSE Russell 2016年9月30日付

指数に関するご質問・ご相談は、右記までお気軽にお問い合わせください。 FTSE 日本オフィス TEL:03-3581-2811 E-mail:Japan@ftse.com

詳細に関しましては www.ftserussell.com をご参照ください

© 2016 London Stock Exchange Group plcおよび関連グループ事業体(「LSEグループ」)。LSEグループには、(1) FTSE International Limited(「FTSE」)、(2) Frank Russell Company(「Russell」)、(3) FTSE TMX Global Debt Capital Markets IncおよびFTSE TMX Global Debt Capital Markets Limited(合わせて「FTSE TMX」といいます)ならびに(4) MTSNext Limited(「MTSNext」)が含まれます。無断複製・転載を禁じます。

FTSE Russell®は、FTSE、Russell、FTSE TMXおよびMTS Next Limitedの商号です。ここで使用される「FTSE®」、「Russell®」、「FTSE Russell®」、「MTS®」、「FTSE TMX®」、「FTSE4Good®」、「ICB®」およびその他の商標ならびにサービスマーク(登録されているか否かは問いません)はすべて、LSEグループの該当メンバー会社またはそのそれぞれのライセンサーによって所有またはライセンスを供与されているか、FTSE、Russell、MTSNext、FTSE TMXが所有、またはそのライセンスに基づいて使用されています。

すべての情報は、情報提供のみを目的として提供されています。本刊行物に掲載されているすべての情報の正確性には万全を期しておりますが、LSEグループのいかなるメンバー会社、そのそれぞれの取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも、本刊行物または本刊行物に含まれるいかなる情報、データの使用による誤りまたは損害に対し一切の責任を負いません。

LSEグループのいかなるメンバー会社、そのそれぞれの取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも、明示・黙示を問わず、インデックスを使用した結果や、[インデックス]が使用されるあらゆる特定目的へのそれらの適合性についていかなる要求、予測、補償、表明も行いません。

LSEグループのいかなるメンバー会社、そのそれぞれの取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも投資アドバイスを提供しません。本文書いかなる内容も、金融や投資の助言を構成しません。LSEグループのいかなるメンバー会社、取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも、いかなる資産への投資の推奨度に関して一切の表明を行いません。このような資産への投資における決定は、ここに記載されるいかなる情報にも依頼すべきではありません。インデックスに直接投資することはできません。インデックスへのある資産の編入は、その資産の購入、売却または保持を推奨するものではありません。ライセンスされた専門家から法律、税務、投資についての助言を得ることなく、本刊行物に記載される一般情報を実行しないでください。

この情報のいかなる部分も、LSEグループの該当メンバー会社の書面による事前の許可なく、複製、情報検索システムへの蓄積、電子・機械・写真複製・録音など何らかの方法による転送を行わないでください。LSEグループのインデックスデータの使用および販売、ならびに金融商品を作成するためのデータの使用には、FTSE、Russell、FTSE TMX、MTSNextおよび/またはそのそれぞれのライセンサーのライセンスが必要です。

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。チャートやグラフは、例示のみを目的として提供されています。提示されるインデックスリターンは、必ずしも投資可能資産の実際の取引の結果を示しません。一部の提示リターンは検証試験でのパフォーマンスを反映していることがあります。検証試験されたパフォーマンスは、実際のパフォーマンスではなく、仮想のもので、検証試験の計算は、インデックスの正式公開時点で有効な方法に基づいています。ただし、検証試験データは事後考察によるインデックス方法論の適用を反映していることがあり、インデックスの計算は、インデックスの計算に使用される基本的な経済データの改訂に基づき月ごとに変更されることがあります。

本刊行物には将来の見通しに関する記述が含まれることがあります。これらは最終的に不正確と判明しうる、将来の状況に関する多数の仮定に基づきます。このような将来の見通しに関する記述は、リスクや不確実性をはらむことがあり、さまざまな要因に影響されうるため、実際の結果は将来の見通しに関する記述と大きく異なる可能性があります。将来の見通しに関する記述は、作成時点での状況に基づくものであり、LSEグループのいかなるメンバー会社またはそのライセンサーも、将来の見通しに関する記述の更新に一切の義務を負わず、またこれを引き受けません。



スマートベータ指数の評価と利用に転機

FTSE Russellが世界の機関投資家を対象に行う年次調査「スマートベータ・グローバル・サーベイ」2016年版によると、機関投資家によるスマートベータ指数の評価と利用が転機を迎えていることがわかった。

*英語版タイトルは、Smart Beta: 2016 Global Survey Findings from Asset Owners

2016年調査対象の機関投資家は253社(2014年は181社、2015年は214社)で、地域比率は北米49%、欧州33%、アジア13%だった。

スマートベータ指数を「現在評価中」と回答した機関投資家の比率は、2014年の初回調査時の15%から2016年には36%へと2倍以上の増加となった。スマートベータにすでに資産配分をしている機関投資家の62%は資産配分の増加を検討中だと答えた。2016年調査でスマートベータを新しく採用したと

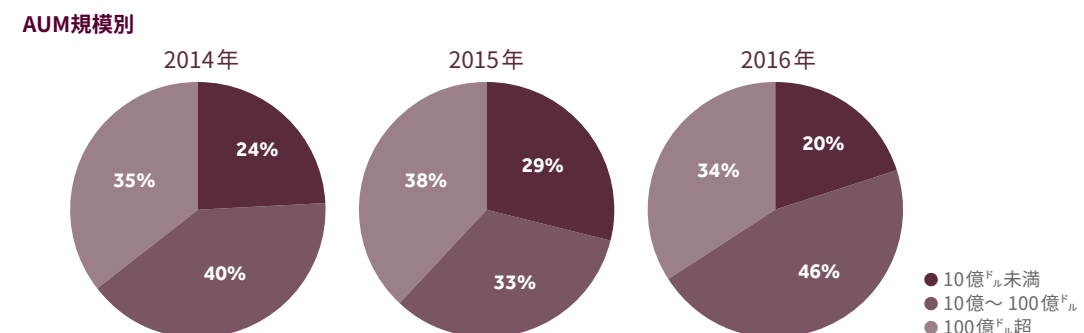
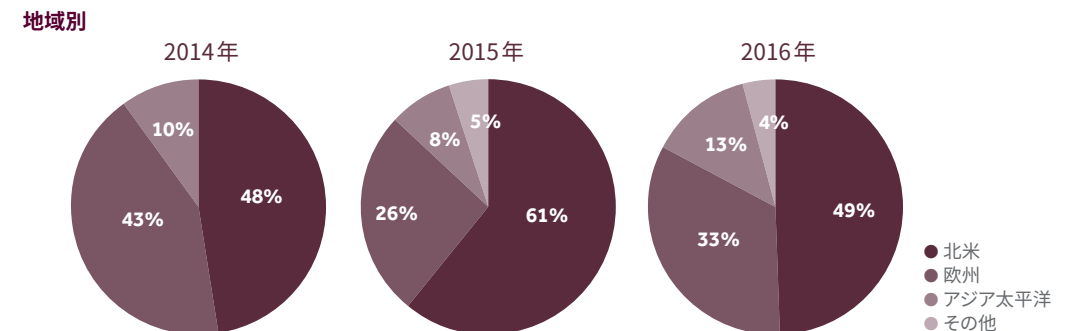
OCT 2016
FTSE RUSSELL NEWSLETTER

機関投資家のニーズに応える
FTSE Russellの革新的な
インデックス・シリーズを
ベースとした情報発信レター

回答した機関投資家を運用資産残高(AUM)で見ると、10億ドル未満の比率が最も高かった。

調査対象機関投資家の地域別・運用資産残高別比率(調査年別)

本調査では、対象となる機関投資家の地域別・資産運用残高(AUM)別の比率は調査年ごとに異なる。その差異が調査結果のスマートベータ指数の新規採用の前年比率などの変化に影響を及ぼすことも考えられるが、調査対象比率の差異については、それが全体傾向の対前年変化に影響をもたらさない範囲にとどまるように考慮されている。



世界の機関投資家の間でスマートベータを評価する動きが転機を迎えていることに加えて、2016年調査では、機関投資家のスマートベータへの利用と展望（運用期間）に重要な変化が起きていることも明らかになった。5つ以上のスマートベータ指数を使っている機関投資家の割合は、2014年の2%から2016年は

主要な調査結果

今後の見通し：スマートベータの今後について、調査結果は、新規利用に向けて現在評価中の機関投資家と、すでに利用中で資産運用規模を今後増やす考えの機関投資家の双方によってその利用の継続的拡大が支えられていくことを示唆している。

スマートベータの運用目的：スマートベータを利用する主目的が、運用収益向上とリスク軽減であることに変わりは見られないが、2016年調査ではコスト削減が過去2年の調査より重要性を増していることがわかった。

スマートベータ戦略の進化：機関投資家が運用戦略に利用するスマートベータ指数は時間の経過とともに進化しており、それを反映して、ハイクオリティ戦略、モメンタム戦略、マルチファクター戦略の利用増が見られる。さらに、スマートベータ指数による運用はアクティブ運用の一部とする見方の増加傾向は止まらず、「アクティブ運用そのもの」だという見方は2015年の22%から2016年は35%に増加した。

スマートベータの利用を現在評価中と答えた機関投資家のうち、ほぼ半数は複合型マルチファクター戦略、ほぼ40%は低ボラティリティ戦略を評価中であることがわかった。

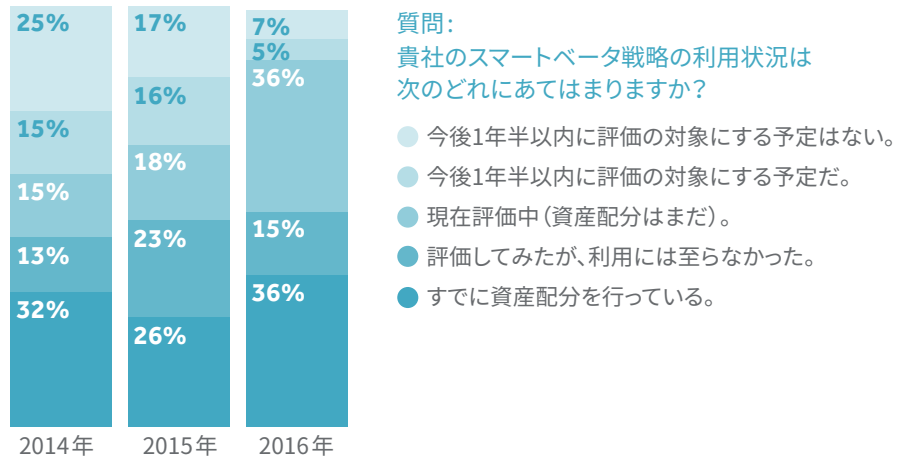
質問：現在評価中のスマートベータ戦略は何ですか？



複数回答：スマートベータ資産配分済み、評価したものの利用に至らず、現在評価中と答えた機関投資家に回答を要請。「インカム収入」項目は2015年調査から。

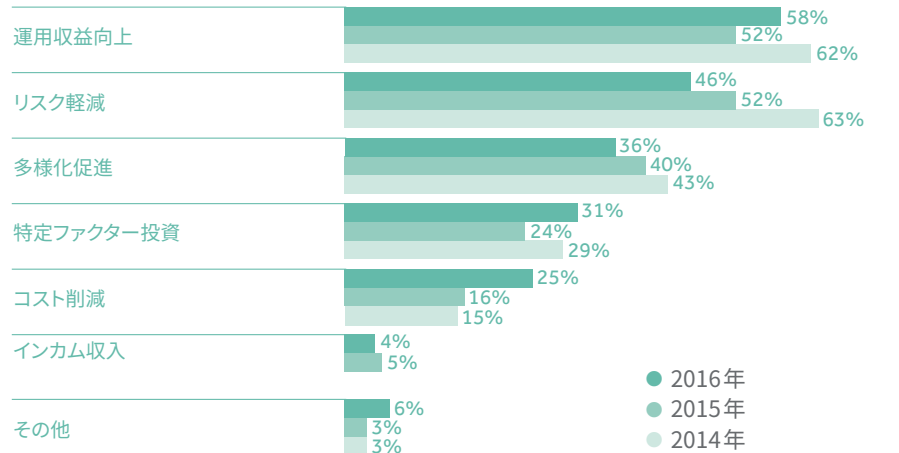
21%に急増している。機関投資家の利用率が高いスマートベータの種類の上位2位は引き続き低ボラティリティ指数とバリュウファクター指数だが、新しく採用された種類では複数のファクターを組み合わせた複合型マルチファクター指数の人气が2015年比でほぼ2倍となり、僅差で3位だった。運用期間については長期化傾向が強まり、70%近くが投資目標を達成するために5年またはそれ以上の長期運用を計画していると答えた。

2016年はスマートベータ評価の転機：「現在評価中」の回答は2014年比で倍増

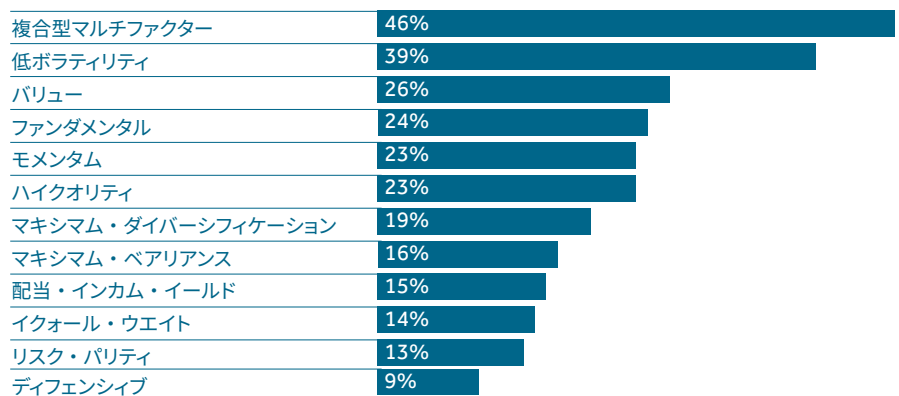


スマートベータを利用する主目的が、運用収益向上とリスク軽減であることに変わりは見られないが、2016年調査ではコスト削減が過去2年の調査より重要性を増していることがわかった。

質問：スマートベータ利用を決めた動機は何ですか？



複数回答：スマートベータ資産配分済み、評価したものの利用に至らず、現在評価中と答えた機関投資家に回答を要請。「インカム収入」項目は2015年調査から。



複数回答：スマートベータ資産配分済み、評価したものの利用に至らず、現在評価中と答えた機関投資家に回答を要請。「インカム収入」項目は2015年調査から。



Column スマートベータとファクター・インベスティング

加藤 康之(京都大学 大学院経営管理研究部 教授、前FTSEシニア アドバイザー)

GPIFによるスマートベータの導入以降、スマートベータを採用する年金基金の数が増加しているようである。ただし、単発の実験的な利用がまだ多いのではないだろうか。CAPMという理論的根拠に支えられた伝統的なインデックスファンドと同様に、マルチファクターモデルという理論的根拠に支えられたスマートベータも機関投資家ポートフォリオにしっかり根付いていく可能性は高い。そこで、全体ポートフォリオの中でスマートベータをどのように位置づけていくのが重要な課題になる。その場合、ファクター・インベスティングという考え方が役に立つ。ポートフォリオをそのファクター・エクスポージャー(感応度)に着目して構築する方法である。ファクターとは、バリュウ、サイズ、低リスクなど長期的に超過リターンを源泉になる共通の要因である。ポートフォリオのリターンやリスクの多くはこれらのファクターで説明出来るというのがマルチファクターモデルの理論である。スマートベータは何らかのファクターに対するエクスポージャーを有するようにデザインされている。ファクター・インベスティングでは全体ポートフォリオのファクター・エクスポージャーを資産配分のように予め決めておくことになる。

ところで、ファクターの超過リターンには変動があり、短期的には負の超過リターンもある。過去数年にわたりバリュウ・ファクターが市場平均を下回ったのは周知の事実である。したがって、短期の変動を避けたいのであれば、全体ポートフォリオのファクター・エクスポージャーも資産配分のようにある程度分散しておく必要がある。問題はどのように分散するのかという方法論である。しかも、伝統的なスマートベータはそもそもファクター・エクスポージャーを意識して作られておらず、ダイナミックに変化する場合がある。そこで、伝統的なスマートベータに加え、単一のファクターに常にエクスポージャーを持つように設計されたファクター・インデックス、そして、複数のファクターに常にエクスポージャーを持つマルチファクター・インデックスの2つを加えて考えてみる。これらの3つを前提とすれば、ファクター分散の方法としては、次の3つが考えられる。

- ①伝統的なスマートベータを複数採用して分散する
- ②ファクター・インデックスを複数採用して分散する
- ③マルチファクター・インデックスを採用して分散する

伝統的なスマートベータはそれぞれのコンセプトが優先されるため、ファクター・エクスポージャーは時間とともに変わる場合がある。逆にファクター・インデックスはファクター・エクスポージャーに着目しているためエクスポージャーは安定しているが、ポートフォリオとしての効率性は必ずしも優先されていない。したがって、ポートフォリオとしてのコンセプトを優先するならば①、決められたファクター・エクスポージャーを優先するのであれば②か③を選ぶことになる。②と③では③の方がファクター・エクスポージャーの厳密な分散を実現できるが、個別に作りこむ必要がある一方、②は組み合わせるだけなので簡便にできる。以上のようにそれぞれの方法には特色と留意点があり、目的に応じて使い分ける必要がある。

外部情報の入手先：スマートベータ指数の評価に必要な情報の入手先には、外部の資産運用会社、コンサルティング会社、指数算出会社があるが、機関投資家の運用資産残高

(AUM)によって入手先は異なる。FTSE Russellの調査によると、外部の資産運用会社を最も利用しているのはAUMが10億ドル未満のグループ、コンサルティング会社は10億ドル～100億ドルのグループ、指数算出会社は100億ドル以上のグループという構図となっている。

機関投資家の情報源

スマートベータ情報の入手先では、外部資産運用会社が3年連続で1位に選ばれた。しかし、入手先は機関投資家のAUM規模によって異なる。

質問：スマートベータ戦略に関して信頼できる情報の供給源はどこですか？

	<\$1B	\$1B-\$10B	\$10B +	Total
資産運用会社(グループ外)	45%	55%	64%	56%
コンサルティング会社	51%	65%	21%	46%
定期刊行物	34%	34%	64%	45%
業界イベント/シンポジウム	34%	44%	32%	38%
指数算出会社	23%	32%	43%	35%
同業他社	32%	22%	29%	27%
金融専門情報ベンダー	34%	25%	18%	25%
一般経済・投資情報ベンダー	32%	22%	19%	24%
オンライン利用産業フォーラム	15%	5%	8%	8%
その他	4%	6%	3%	5%